

南部・東部地域振興対策特別委員会記録

開催日時 令和2年6月16日(火) 13:04~14:21

開催場所 第1委員会室

出席委員 9名

秋本登志嗣 委員長

中川 崇 副委員長

亀甲 義明 委員

西川 均 委員

田中 惟允 委員

田中 憲治 委員

今井 光子 委員

森山 賀文 委員

川口 正志 委員

欠席委員 なし

出席理事者 前阪 南部東部振興監

梶田 水循環・森林・景観環境部長

杉山 食と農の振興部長

山田 県土マネジメント部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 6月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<会議の経過>

○秋本委員長 ただいまの説明、報告、またはその他の事項も含めまして、質問があればご発言願います。

○亀甲委員 先ほども説明があったように、新型コロナウイルスの云々等ありまして、南部・東部地域に関してはイベント等もなくなっている状況かと思えます。

イベント等なくなった状況と、もともと合宿等もされていたと思うのですが、この夏に向けて、また年末年始へ向けて、どのように考えておられるのか聞かせていただきたいと思えます。

○福野知事公室次長（南部東部振興・移住交流担当、奥大和移住・交流推進室長事務取扱） 亀甲委員から、今後のイベントをどう考えていくのかとのご質問をいただいたと
思っております。Kobo Trailは、5月開催でしたが中止させていただきました。例年実
施しているえんがわ音楽祭は、9月末の予定になっておりましたが、一月ぐらい延ばし
て10月中旬にコロナ対策を行いながら実施していきたいと思っております。

そのほか、今回、補正予算で要求しておりますアートイベントを計画していきま
し、旅館の集積地である吉野山や天川村、十津川村を中心に集客イベントも実施していき
たいと思っております。

そのほか、市町村のイベントと、県の他部局のイベント等も聞いておりますので、
できる限り対策をしながら実施し、集客を図っていきたくと考えております。

○亀甲委員 経済活性も含めてできるだけ対策をしていただいで、私はいろんな面に関
して実施していただきたいと思っております。

その中で、今回県でも県内消費に向けて、観光の宿泊キャンペーン等、実施されると
聞いております。

その中で、学校の修学旅行を中止するとか、文部科学省はできるだけ感染対策をしな
がら実施という話も出ていると思っておりますが、今後どうなるか分からない状況の
中で、もしかしたら県外に出られない状況になる可能性も秘めていると思っております。

その中で、南部・東部地域に関して魅力ある地域だと私も思っておりますので、県内
の修学旅行等々も考えてはどうかと思っております、その辺、今後そういう状況も踏
まえて、県としてどのように考えておられるのかお聞かせください。

○前田教育次長（学務担当） 県内での修学旅行の実施についてどうかとお尋ねです。

修学旅行については、中止や延期で今後どうするか検討している学校が多くございま
す。これまでから県内の宿泊施設等を利用しての学校行事は、修学旅行ではなく自然体
験教室、宿泊訓練、野外活動であり、これらの学校行事を実施している小学校、中学校、
高等学校はありまして、約半数を超える学校が実施していたところす。

しかし、修学旅行は、平素とは異なる生活環境で見聞を広め、自然や文化に親しむと
ともに、人間関係をよりよく築いていくといった集団生活を行うものであり、県外での
実施がほとんどであったわけですが、密を避けることや、いろいろな新型コロナウイルス
感染症対策についても考えながら、修学旅行をやめる場合には教育的意義や児童生徒
の心情にも配慮し、中止ではなく延期するよう文部科学省からもお話が出ています。

現時点で修学旅行を県内で実施する計画は聞いておりませんが、何よりも児童生徒の安全を第一に、学習効果や心情にも配慮して、旅行先、時期などを検討したいと考えております。

○亀甲委員 県内の先ほど言いましたイベント等がなくなった中で、修学旅行へ行きたい子どもさん、私の息子も小学6年生で、「お父さん、修学旅行ないのかな」という話も出ていまして、いろいろな方とお話する中で、子どもたちが奈良県のことをどこまで知っているのかも含めて、この状況の中で修学旅行がなくなるのであれば、少しでも安全対策をしながら、奈良県内で子どもたちが修学旅行に行ければよいなというお話も出ていました。

今後どうなるか分からない状況ですので、教育委員会、また南部・東部のほうも、子どもたちにとっていいような形をつくっていただければと思いますので、検討して進めていっていただくよう要望します。

○今井委員 国道169号高原トンネルの工事が具体的に進んでいくとの報告を聞かせていただきました。大変な工事になるようですので、十分に安全対策をしながら、工事を進めていただくよう要望しておきます。

それから新型コロナウイルス感染症の問題で、南部・東部地域で感染者が出たのは大淀町だけという状況が明らかになっております。まさに私は今こそ過疎地域に大勢の人に来ていただくチャンスではないかと思っております。オンラインで仕事ができることも多くの皆さんが体験されていますので、職場から離れたところからでもできる、しかも自然が豊かなところで子育てをしたいという願いなどもたくさんあるのではないかと考えておりますが、この新型コロナウイルス感染症の問題が出て以降、奈良県に移住したいというような問い合わせ状況はどうかお尋ねします。

○福野知事公室次長（南部東部振興・移住交流担当、奥大和移住・交流推進室長事務取扱） 以前からサテライトオフィスの誘致に関して動いてきたのですが、IT関連企業がどんどん東京のオフィスを引き上げていっているという情報が入りまして、東京近郊のローカル都市へ割とオフィスが動いていっているという情報も入っています。また、ステイホームでテレワークを家でするのが難しい人たち向けの小さなオフィスがどんどん売れているというか、動いているという情報も入っております。

移住相談も知人を通じてや、東京大阪の知り合いなどがいくつか来ているのですが、会社としては今のところまだ考えているという話までで、行きたいという話には至って

いません。

ただ、以前からテレワーク、サテライトオフィス誘致とか、今年度はワーケーション
とって、遊びながら仕事をするというような働き方もあるようでして、それについて
も検討を進めたいと考えているところです。

○今井委員 過疎の人が少ないということもあるのですが、森林が多いことと、新型コ
ロナウイルスの関係について具体的な研究というところまではまだ至っていないと思
うのですが、私は何か関係があるのではないかと考えております。

先日、奈良の木ブランド課から、「奈良の木で健康・快適に暮らす!!ハンドブック」
を頂き見ましたら、奈良の木はウイルスの感染力を低下させることもありましたし、こ
の奈良の木というものも頂いたのですが、室内湿度50%に自動調整して、人にも住宅
にも良好な環境を創出すると。空中の浮遊菌が一番死滅しやすいのが50%だと。だか
ら自然の湿度調整機能を奈良の木が果たしていることも紹介してありましたので、まさ
に今、これからコロナの時代で、皆さんがどうやって生活していこうかと言っている
ときに、3密などは言いますが、もっと木のあるところで暮らそうということを示して
いく大事なチャンスではないかと思っているわけです。

うちの家の具合が悪くなってリフォームをするということで、工務店の方に奈良の木
は使えないかと話をさせていただきましたところ、奈良の木の見本がないと。ほかの材
料でしたら見本があつて、大体どんなものが幾らぐらいというのがありますので選べる
のですが、奈良の木は見本がないと言われました。それだったら、せっかく皆さんが使
いたいと思っても、奈良の木が使えないなと思って、見本はありませんかということで
この本を頂きまして、ここにいろいろ書いてありましたので、この本のおかげで、奈良
の木を何とか使うことができたのですが、実際使ってみて、すごく快適な状況、匂いも
いいですし、私はもっと今のときにこうしたものを普及していただきたいと思ってい
ますが、その点で何かお考えがあつたらお聞かせいただきたいと思います。

○三浦奈良の木ブランド課長 今井委員からご紹介のありました奈良の木の効能ですが、
過去にインフルエンザウイルスには優位という結果があります。新型コロナウイルスに
つきましては、これにどのような効果があるのかは、まだ不明なところですが、奈良の
木の販路の拡大に努めてまいりたいと思います。

○今井委員 今回の新型コロナウイルス感染症での学校休校で、6月からスタートとい
うことで話題になっておりますが、野迫川村だけは学校を休校しないでずっと授業を続

けていたことを知りまして、私も自分のフェイスブックで紹介しましたら、すごいなという反応などもあったのですが、国が言うとおりにいろんなことを右にならえではなく、それぞれの地域で、住民のために一番いいことは何かを考えて実行することが今回の新型コロナウイルス感染症のいろいろな対策で求められたのではないかと考えております。

先ほど野迫川村の教育長にお電話で、どうして野迫川村はそのような対応をしたのか聞きましたら、3月の一斉休校を安倍首相が言われたときには一旦休校をされたようですが、4月のときは村の対策会議で話し合いを行い、親御さんが働いている子どもさんの場合に、保育所で預かるとなると余計密になる、小学生が4人で各学年1人しかいない、中学校は2人ということで、それだったら学校で授業を続けるほうがいいだろうということで、マスクや消毒など万全の対策をして続けましたとのお話を聞きました。そのような教育ができる場所であるという、これもすばらしい有利性と考えておりますので、様々な意味で、今回の新型コロナウイルス感染症と過疎の問題では、過疎に脚光を浴びるようなことが起きたのではないかと考えております。

もし教育委員会で、この野迫川村の学校の問題や過疎地域での学校関係のことで何かご意見があったらお聞かせいただきたいと思っております。

○前田教育次長（学務担当） 県内で唯一野迫川村が、4月以降臨時休業なしに学校の活動を行っておられたということですが、それぞれの地域で保護者の勤務状態や人の動き等、また発生状況等もありましたので、市町村立学校では地域により少しずつ臨時休業の期間の長短が出てきたのも事実です。

野迫川村は今井委員がおっしゃったように、子どもの数が少ないこともあって、状況を把握しやすいこともあったかと思っておりますが、いろいろな意味で過疎地域の教育について、今後ICTの教育の充実も含めて支援をしてまいりたいと考えております。

○今井委員 ICTにつきましては、ぜひ十分に配慮していただいて、環境なども整えていただきたいと思っております。

○川口（正）委員 資料の6月定例県議会提出予定議案の概要に教育の項が出ていました。丸印のご説明いただいたところは、南部・東部地域に重点を置いて施策を行う内容のものだと私は受け止めて発言をするわけです。

まず、8ページのオンライン学習環境整備事業について、インターネット環境が整っていない家庭に貸与となっていますが、整っていない家庭がどのくらいと捉えておられるのか、貸与について1家庭にどれほどの経費がかかるのか、具体的な個々の内容を教

えてほしい。

次に9ページの情報教育環境整備事業について、県立中学校及び特別支援学校小学部・中学部に情報教育環境整備の内容があります。その中で情報端末の整備、1,050台とありますが、どこの学校に何台、単価は1台どれぐらい経費がかかるのか教えてほしい。

そして、情報端末の活用支援する技術者を配置とあるが、技術者を何人配置されるのか、聞かせてほしい。

そして、9ページの学校教育活動再開対応事業では、県立学校等において、感染症対策等を徹底した学校教育活動や、子どもたちの学習保障のための取組に迅速かつ柔軟に対応とありますが、これはどの学校もこういうスタンスなのか、特定の学校ならばどの学校なのか教えていただきたい。

○前田教育次長（学務担当） 3つの事業についてご質問を頂きました。

まず1つ目のオンライン学習環境整備事業ですが、県立学校と言いますのは、青翔中学校も含めて、県立中学校と高等学校のインターネット環境を整備するというものです。

○川口（正）委員 いや、私が尋ねたことに答えてください。

○前田教育次長（学務担当） 実際にインターネット環境があっても、家庭で……。

○川口（正）委員 どれほど捉えておられるかということです。

○前田教育次長（学務担当） これは学校のインターネット環境を整備するというものですが、このモバイルルーターは家庭で100台を予定しております。

○川口（正）委員 100台予定だというのだけれども、環境の整っていない家庭はどのぐらいあるのか。

○前田教育次長（学務担当） 4月当初に調査しましたのでは1,500ほどの家庭がありました。

○川口（正）委員 1,500台の保障で100台しか出さなかったらどういうことになるのですか。

○前田教育次長（学務担当） もう学校の教育活動も再開されていますので、親から借りられたり、学校に時差登校や分散登校などで来ているときに使うこともできるというようなことで、予算上は100台ということになっております。

ノート型パソコンは学校にあるものを貸与しますので、費用はかかりませんが、モバイルルーターについては1台当たり5,000円程度と聞いております。

2つ目の情報教育環境整備事業ですが、情報端末の整備1,050台は、青翔中学校と特別支援学校の小学部・中学部の全児童生徒が対象となっています。

情報端末の活用を支援する技術者の配置は4名を予定しており、それぞれ学校を巡回しながら支援していく計画をしております。

3つ目の学校教育活動再開対応事業ですが、県立中学校、高等学校が34校と、特別支援学校が10校、総合寄宿舎を含めて45か所に1か所当たり平均300万円で計画し、総額1億3,500万円となっております。全ての県立学校が対象ということになります。

○川口（正）委員 まずこの8ページのオンライン学習環境整備事業で把握されているのが、1,000台あまり。それから貸与の対象は100台と私の耳には入ったわけだけれども、100で割ったら単価が出るというようなものだけれども、もう少し詳しく教えてもらいたい。いいことなのですよ。いいこととしていただいております。感謝しながら尋ねている感じですので。

それから2番目の情報教育環境整備事業の情報端末について、全児童生徒が対象で1,050台というのは全児童生徒は1,050人いるということですか。きっちりですか。単価はどうなるのか。人件費と機材との関係、これを総括的に書いていますが、この区分けも分かりません。もうちょっと勉強したいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○中川副委員長 主な取り組みでも紹介がありましたが、奥大和移住定住交流センター *engawa* の活用、運営について質問です。

こちらは、たしか2016年に開設しまして、いろんなイベントの場であったり、南部・東部地域で作られたものを披露する場、販売する場であったり、あとNPO法人を通じまして相談をしてもらえる場であったり、そういった多面的な使い方ができる場所であると見ておりました。

振興基本計画も今年度で終わり、また新しい計画をこれから作っていくという節目ですので、またそういった場所に大変思い出がある福野次長ももうすぐ定年ということで、この機会にどういった総括をされているのか、またこんなことにもっと使っていけたらいいなど、そういったアイデアがもしありましたら、ぜひとも聞いておきたいと思っております。質問させていただきます。

○福野知事公室次長（南部東部振興・移住交流担当、奥大和移住・交流推進室長事務取

扱) 中川委員が e n g a w a のこれからについて、どう考えているのかという質問だと思っております。

e n g a w a は、委員からご紹介があったように南部地域に小規模多機能拠点を整備していこうという取り組みの中の実験施設として、平成28年4月からやってまいりました。そして令和元年7月にリニューアルオープンし、奥大和で作られている家具や雑貨、途中で食品も少し入れだしまして、テストマーケティング的な販売を行っているところ です。

リニューアルオープンして、昨年7月から本年3月末までの状況については、来館者数が対前年比約1,300人増、月平均183人となり、かなり寄ってくれるようになってきてまして、お店にも来てくれるようになりました。

ただ、本年4月からは新型コロナウイルス感染拡大の影響が相当出まして、月約60人となっています。売上も昨年の半年間は約50万円あったのですが、本年4月5月は約3万円となり、かなり厳しい状況になっております。

ただ、ワークショップをできていないのですが、店をしたことにより、設計事務所の方や、進物、プレゼントを選びに来ていただいています。奥大和で頑張っている若い人たちや、もともとやっている人たち、かなり広い範囲に散らばっているものが、1か所にあり、一同に見られるということで、いろいろな方が見に来て買っただけのようになりつつあった中で、コロナの状況になっています。

チャンスはあると思っております、今後はeコマースというネットショップも新たに展開するので、もうほぼ準備ができているところです。

あと、小売スペースでのコワーキングスペースの利用もコロナ期間中もコワーキングスペースは開けていましたので、ずっと使いに来ていただいている方もだんだん増えてきている状況にあります。

ほかの機能を今後どうしていくかも実験したいと思っております、運営委託会社とも相談しながら、飲食、カフェ機能等を追加していきたいと思っております。

○中川副委員長 資料にないようなことまで踏み込んでご説明いただきました。アクションプランなんかもあったのですが、こちらは行う内容がベースですので、場所としてそこを使うかどうかというのは分かりませんでしたので、こういった聞き方もさせてもらいました。

最後に、南部・東部振興の主な取組について、最初に人口の増減について言及がある

わけです。私も人口の増減については、注目して見る必要があると思っております。人口だけが全てではないといった考え方もあるかと思えます。入込客数がどんどん増えていって豊かに暮らすことができるのだったら、人口が多少減ってもいいではないかという考え方もあるかもしれませんが、一定の社会的な機能を果たすためには、やはり人口の維持は大事なことだと思っております。

こういったグラフであったり、数値を見ていく中で、もうちょっとできたら付け加えてほしいなというものもあります。何かと言いますと、人口の増減について、奈良県内、奈良県外、転入転出があるわけですが、例えば2ページの上、南部地域と東部地域のそれぞれについて、トータルの社会増減のグラフがありますが、実際、県外からの転入は多かったのだけれども、奈良県内への転出が多かったため、結果としてたくさん減っている年もあったように思います。

私も南部・東部地域に含まれております御所市の出身でして、小学校の同級生などに聞いておきますと、「僕らは橿原市に移ったんや」とか、「大和高田市に引っ越したんや」とかそういったことばかり聞くわけです。

私にしても、東京に行った後、御所市に帰ろうかと考えたのですが、結果として奈良市に戻ってきたという状況もあります。聞いてみますと、奈良県内であっても転出するということについては何かしら理由があってそこに移るわけですし、逆に奈良県内、例えば橿原市や田原本町といったところから田舎のほうに引っ越すという方も知り合いの中にいました。

そういった分析を進めていくために、ぜひともその社会増減の分析のなかに、県内の転入転出、そして県外の転入転出、このそれぞれにつきまして、数字の動きなんかも見ていただきたいと思っております。

そういった視点も考えながら、次の計画に生かしてもらいたいと思っております。

○秋本委員長 もう質問はないですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○秋本委員長 これで質問を終わります。

一言ご挨拶を申し上げます。当委員会は引き続き調査並びに審査を行ってまいります。特別委員会の設置等に関する申し合わせにより、正副委員長の任期は1年となっておりますので、この構成による委員会は特別な事情が生じない限り、本日が最終になるかと思っております。

昨年5月の委員会設置以来、皆様のご協力を頂き、無事任務を果たすことができましたこと、深く感謝を申し上げます。

簡単ではございますが、正副委員長のお礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

それでは、理事者の方々は退室願います。ご苦労さまでございました。

委員の方はお残りください。

(理事者退席)

○秋本委員長 それでは、ただいまから本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。委員間討議もインターネット中継を行っておりますので、マイクを使って発言願います。

6月定例会閉会日に行う当委員会の中間報告案と、参考にこれまでの委員会で各委員から頂いた意見等を整理した資料をお手元に配付いたしております。中間報告案について、各委員の皆様には、事前にご一読をお願いしておりますが、ご意見等がございましたらお願いいたします。

何か意見ございませんか。

○川口(正)委員 要望事項の中で、2番目に南部・東部地域を元気にするために今一度施策の見直しをされたい、とあるが、今までやってきたことで悪い、これは外せというようなものがあるのかどうかということで、私は疑問を感じるわけです。

だから、充実とか、拡充とか、そういうような意味の表現をしたほうがいいように思う。今までやってきたことに、これは外そうというようなものがあるのかどうなのか。そうだったら見直さないといけないけれども。

やってきてくれたことはみんなそれなりに充実した形で、心を込めてやってきていただいたと思いますので、その点を一考する必要があると私は思う。

もう一つは3つ目の専門学科や特色のある高等学校について、広く県外からでも募集できるよう検討されたいこと、とあるわけです。実は、御所実業高等学校、公立高校だけれども、ラグビーをやろうという子どもたちには、県外から特別に入れるようにしてくれている。十津川高等学校はボート、榛生昇陽高等学校は自転車競技、高田商業高等学校はテニスでやってくれていると思う。県教育委員会はそれなりに県外からも入学できるよう配慮を既に幾つかしてくれていますので、これも充実です。

南部・東部地域の関係の県立高校で、申し訳ないけれど、やっぱり我々は北よりも南

に力が入るわけですが、南部の県立高校の関係で、特に専門的な要素というものを見つけた形で、ここもどうだ、あれもどうだというような形で提案ができればそのようにしたほうがよいのではないかと。この点については、学校とも連携を取らないといけないと思いますが、私は表現は変えるべきであろうと思う。

もう1点、私は皆さんへご協力をお願いするけれども、実は新しいものも大事なことです。古い施設には歴史・伝統がある。その歴史・伝統のある施設をどこかへ持って行かれるとなると、そのかつてあった地域の関係の市民は、情緒を奪われるということになりますので、抵抗感を覚えると。いろいろな意味で新しい時代を求めたところの施策は大事なのです。施設の設置場所についても考えなければならない場合もありましょうが、基本的には歴史伝統を重んじた形で施設を近代化する、あるいは充実させるという方向に、ぜひ留意して県は施策の中で織り込んでもらいたいと思う。

特に私がお願いをしたのは、私の地元の御所市に薬事研究センターがある。薬事研究センターはそもそも薬事に関わっての方々が、発端ででき上がった施設であるということ、まだ今年度の予算で耐震というような形での予算を組まれた。その中でも建て替えというような意味も見て、騒音性を重んじるということで、耐震をちょっと休憩ということになっているわけだが、その以降の展開について、県は基本的な方向というものをまだ持っていないと私は思うので、この点についても付け加えた形で南部振興、薬は何と言っても大和漢方、御所ということも歴史の源ですので、そういう意味でこの要望の中に加えてほしいとお願いをする次第です。

○国中委員 川口委員からの全国展開の高等学校の入学の件についてですが、紹介していただいたのがスポーツ部門ばかりです。それで、私5年ほどもなると思うが、教育長に申し上げたのですが、吉野高等学校の森林科学科はあるが、土木と建築もあるのだけれども、土木と建築は何とかなるのにそれでも100名募集する中で、20数名しか来ていない。それでもう林業もゼロになりかけたときもあるのだから、それを林業を国策としてだから、吉野林業、要するに川上林業がなくなったから、全国的に割れていると。

だから、生徒がいなかったら林業関係学科だけでも全国募集するよと言ったのだけれども、スポーツを最優先して、未だに実現されていないのです。願わくば、川口委員が言われた全国募集できるのだったら、そういう専門的な林業関係学科等々へも導入していただいたらとお願いしたいと思います。

○今井委員 高等学校のことが書いてあるのですが、島根県が島根留学を全県挙げて、

小中学校も含めまして島根県に来てほしいと。受入れできるところには宿舎も作って、村民みんなで子育てしますなど、いろいろな形で魅力を発信しながらやっています。

奈良県は、逆に高校生の県外流出が全国一という状況になっていますので、奈良県の魅力で奈良県にみんなに来てもらう取り組みをする必要があるのではないかと思いますので、この高等学校だけに限らずに、私は受入れできるような取り組みが必要ではないかと思います。

○秋本委員長 ほかにないですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○秋本委員長 ただいまご意見をいただきました。それを踏まえて、修正も含めまして中間報告については、正副委員長に一任願えますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○秋本委員長 ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。

それではこれを持ちまして……。

○川口(正)委員 毎年、南部振興議員連盟は、大きな懇談会をしますが、前年度は下北山村へ行った。その前年は野迫川村へ行った。一泊二日の視察と、泊まり付きの交流、これを計画したい。今年は南部振興議員連盟とこの南部・東部地域振興対策特別委員会共催という企画を進めさせていただきたいと、皆さんにお願いしたいと思います。新型コロナウイルス感染症の第2波がどうなるのか、いずれにしても進める方向で、よろしくをお願いします。

○秋本委員長 これについて皆さんのご意見は。それでいいですか。それで結構です。

ほかにないですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それではこれを持ちまして、本日の委員会を終了します。なお、委員の方は残ってください。